

# 「下水道管更生技術施工展2014北海道」 札幌で開催



篠田 康弘  
SHINODA Yasuhiro

(公社)日本下水道管路管理業協会  
常務理事

## 1. はじめに

昨年7月、国交省は更生工法に関するJIS規格の制定を行い、これにより2つのISO規格を1つの規格として国内条件も踏まえ取りまとめた。一方、平成23年9月に発行された「管きよ更生工法にける設計・施工管理ガイドライン(案)」(以下「ガイドラインとする」)についても現在見直しが進んでおり、上記JISとの整合が図られるとともに、実態に合わせた改訂が平成28年に行われる予定である。これによりこれまで発展過程と言われてきた更生工法も、成熟した工法として一般化し、その採用も一層加速するものと考えられる。

一方、修繕技術は安価に損傷箇所を再生するとともに、更生工法の前処理工法としても最近多用されるようになってきている。また、昨年5月には「下水道施設の耐震対策指針と解説」が改訂され、管きよの可とう化工法として修繕工法(リング工法)やマンホール壁ズレ対策としてのマンホール更生更生工法や接着補強工法(ライニング工法)が、耐震対策として新たに位置づけられている。このように下水道管路の修繕改築工法は範囲が拡大するとともに、採用数も増加し、自治体職員など関係者には強い関心があるものの、実際に見る機会が少なく、施工法についても想像しづらい面

があった。

このため、これらの技術を中心に管路管理に関する最新の技術や製品の実演を実際に見ていただき、また、直接話を聞いていただき、実感を持って知っていただくことを目的に、第14回「下水道管更生技術施工展(以下、施工展という)」が、札幌市内のケーズデンキ月寒ドームにて9月18日に開催された。主催は当協会(本部・北海道支部)で、今回は国土交通省北海道開発局、北海道、札幌市、北海道地方下水道協会、(公財)日本下水道新技術機構の後援により、29団体の出展と来場者1,164名を得て盛大な展示会となった。なお、北海道での開催は、前回の小樽に続き今回が2度目、8年ぶりの開催となった。

## 2. デモ施工・展示説明

開会式には、来賓として国土交通省北海道開発局事業振興部調整官、北海道まちづくり局長、札幌市建設局下水道河川担当局長が出席され、それぞれの挨拶に引き続きテープカットが行われた。その後来賓方がすべてのブースを見回るなか、よいよ実演開始となった。

出展団体を分類別に示したのが表-1で、管きよ更生・補修・改築技術が中心であるが、調査等技術や安

表-1 分類別出展団体

分類(団体数)	出展団体名
管きよ更生・補修・改築 【14】	EX・ダンビー, EPR工法, ASS工法, FRP内面補修工法, FFT工法, オールライナー, カナフレックスコーポレーション(株), 3SICP技術, 日本インシチュフォーム, 日本SPR工法, 日本スナップロック, パルテム技術, 光硬化工法, ポリエチレンライニング工法
穿孔ロボット 【1】	(株)南陽
コンクリート防食・被覆 【1】	クリスタルライニング工法
マンホール改築・補修 【1】	MR <sup>2</sup> 工法
管内洗浄・清掃 【1】	兼松エンジニアリング(株)
調査・点検・診断・解析等 【5】	管清工業(株), (株)カンツール, (株)キュー・アイ, 日本タップ(株), ペンタフ(株)
安全衛生管理 【4】	阿南電気(株), (株)重松製作所, 新コスモス電機(株), 理研計器(株)
その他 【2】	札幌市, (公財)日本下水道新技術機構



写真-1 開会式 テープカット



写真-3 会場全景



写真-2 来賓内覧



写真-4 講演会の様子

全衛生管理も多く出展されていた。実演は、1団体15分から30分程度の枠を設け順番に工法等の施工手順を間近で見ることができるよう企画した。この他何か所かで説明を聞く小規模な人のかたまりができることもあった。また、会場が比較的広く確保できたことから、ゆったりとした間取りができ、余裕を持ってみる事ができたように感じた。

### 3. 講演会

併催行事として表-2に示すような講演会を大型テントで行った。北海道の高橋主査からは、北海道各市の経年管きよの状況などが説明された。また、札幌市

表-2 講演内容と講師（敬称略）

『北海道における下水道施設の現状等について』 北海道建設部まちづくり局都市環境課下水道グループ 主査（下水道技術） 高橋 建成
『札幌市における下水道管路の調査・修繕及び改築』 札幌市建設局下水道施設部管路保全課長 田中 直人

の田中課長からは、札幌市で平成24年度以降取り組まれている点検・調査業務と修繕工事の一体型発注についての発表があり、札幌市での積極的な修繕・改築事業の状況が説明された。

### 4. おわりに

この展示会は、毎年当協会の7支部の持ち回りで開催されており、2順目も終盤に差し掛かっている。今回は、北海道ということで時期を通常より1か月早め9月の開催としたが、それでも若干寒さを感じる気候であった。ただし、北海道ということで全国各地から遠く観光も併せて来場する方も見られ、賑わいのある心はずむ様子が感じられた。

先般の理事会において来年は、岡山県倉敷市で決定された。多くの来場者が得られ、その地域に相応しい企画となるよう中四国支部及び岡山県部会さらには当協会内の「修繕・改築委員会」や「施工展運営委員会」等において検討してまいりたい。



写真-5 デモ施工・展示説明の状況

表-3 施工展開催実績

回数	開催都市	開催場所	開催日	出展数	入場者数
第1回	和泉佐野市	りんくうタウン	H13.12. 6	19	923名
第2回	大阪市	コスモスクエア	H14.11. 8	24	1,107名
第3回	広島市	海島博覧会場跡	H15.10. 4	26	1,531名
第4回	名古屋市	名古屋市応急給水センター	H16.10. 8	33	1,474名
第5回	佐賀市	どん3広場	H16.11.11	28	1,082名
第6回	塩竈市	JR本塩釜駅貨物ヤード跡地	H17.10. 6	29	1,237名
第7回	小樽市	「小樽築港前駅」前JRヤード	H18.06.16	28	1,245名
第8回	松山市	城山公園内	H19.10.12	29	1,338名
第9回	三郷市	中川水循環センター	H20.10.9-10	28	2,346名
第10回	大阪市	コスモスクエア	H22.10.06	28	1,786名
第11回	福岡市	舞鶴公園西広場	H23.10.05	28	1,354名
第12回	新潟市	新潟市中央区鐘木地内	H24.10.03	34	1,236名
第13回	利府町	宮城県グランディ21	H25.10.04	37	1,204名
第14回	札幌市	ケーズデンキ月寒ドーム	H26. 9.18	29	1,164名